

第24期第4回理事会議事録

日時 昭和62年10月14日(水) 17:30~19:00

場所 札幌市中央区北5条西5丁目

センチュリー・ローヤルホテル 真珠の間

出席者 山元, 関口, 浅井, 松野, 河村, 村上, 土屋,
中村, 菊地, 杉村, 広田, 岡村, 瓜生, 石島
(オブザーバー) 秋山, 花房

議題

A. 報告事項

1. 第24期第10回常任理事会議事録の確認について
報告事項の「教育と普及」の項に北海道支部及び関西支部で開催の夏季大学の報告を加える修正のうえ確認された。
2. 各委員会報告
審議時間の関係上, 各委員会の報告は資料にもとづくことで省略され,
[講演企画] から63年春季大会のシンポジウムのテーマが「生態系と気候変動」との案が報告された。
3. 昭和62年度日本気象学会奨励金受領者について
全理事による投票の結果, 賛成多数で入田 史
会員, 三品 博会員, 楠原保志会員に決定した。

B. 審議事項

1. 会員の新規加入について
個人会員津田敏雄ほか5名の新規加入が承認された。
2. 昭和63年度予算案および事業計画案について
予算案については, 事前に文書で照会してあるところから説明を省略, 事業計画案はこれから固まるということで, いずれも最終案が来年2月の段階で決まるという前提で審議され, 奨励金及び堀内基金奨励賞の金額について意見があったが, あとの事案で検討されることとなり, 両案とも了承された。
3. 気象集誌の英文校正について
資料にもとづいて担当理事から説明があり, 12頁までの投稿料1頁当たり1,000円アップの6,000円で, 外国人による英文校正を实行したいとの補足説明があった。
英文校正のやり方, 対象論文などについて質疑があったのち原案が承認された。
4. 気象集誌の印刷方法について
資料にもとづいて, 来年度から印刷方式を変更したい旨担当理事から説明があった。技術的な問題で致命的なデメリットはないというが, 実物の資料にもとづいて印刷の出来ばえなど比較検討する必要があるとの意見等があり, チェックできるような資料を揃えて, 理事に再度意見を照会し, 常任理事会で審議することとされた。
5. 奨励金の増額について
担当理事から旅費の補助という意味合いもあって増額をしてはという説明があった。審議の結果, 次の事案と一括審議することとされた。
6. 堀内基金奨励賞について
山元理事長から明日の臨時総会の議題として提案することの主旨説明があった。基金額は有価証券500口(評価額500万円), 現在果実が665,600円となっている。来年の秋の大会には第1回の受賞者を決めたいとし, 設立についての提案理由(案), 受賞者選定規定(案)の説明があった。審議の結果, 「堀内基金奨励賞」の設立については承認され, また, 選定規定(案)の一部を修正のうえ承認された。
奨励金額については, なお, 審議する必要があるとし, 学会賞, 藤原賞, 山本賞, 奨励賞の金額とあわせて, 委員会で見直し検討をし, 常任理事会で審議することとされた。
7. 臨時総会について
担当理事から総会議題等について説明があり, 了承された。
8. 国際学术交流基金の募金について
資料にもとづいて担当理事から提案理由, 募金趣意書の説明があった。募金趣意書にのっとり募金を実行することが承認された。
9. その他
 - (1) 国内会員データベースの入力データのチェック作業と, ソフトのメンテナンスと改良について
庶務理事から資料にもとづき, 事務体制強化の一環として, 会員のデータを入力中で, 引き続きチェック作業とソフトの改良を实行するた

め予備費の支出を求める提案があり、承認された。

(2) 国際交流事業について

62年度国際交流事業の追加として、インドで開催される「熱帯微気象と大気汚染」の国際学会へ、論文発表者1名を派遣し、補助金を支出することが担当理事から提案され、承認された。

(3) 昭和64年度秋季大会を「沖縄」で開催することについて

とについて

石島理事から、沖縄支部長と下相談程度にし、か詰めてないが、未経験ではあるが、了承が得られれば輪番ということではなく、福岡の肩代りということで、開催に向って取り組んでいく旨の説明があり、沖縄支部から実行計画・予算(案)を提出願うこととされ、これにより常任理事会で前向きに検討することとされた。

昭和62年度日本気象学会臨時総会議事録

日時 昭和62年10月15日(木) 16:00~17:00

場所 札幌市北区北8条西5丁目
北海道大学学術交流会館

臨時総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 山本賞授与
5. 日本気象学会奨励金贈呈
6. 「堀内基金奨励賞」の設立について
7. 閉会の辞

出席者数

出席者	155名
委任状	829名
計	984名

1. 開会

中村理事から定款第38条による総会成立に必要な出席者数728名(通常会員現在数3,638名の5分の1)、うち委任状によらない出席者146名(通常会員の25分の1)が満たされているので総会は成立するとして、開会が告げられた。

2. 議長選出

中村理事が議長選出は出席会員の互選によるが、慣例にしたがい大会委員長の秋山 勉会員を推薦したいと語ったところ、満場一致で承認され、同会員が議長に選出された。

3. 議長挨拶

秋山議長から、ご指名により議長をつとめさせていただくので、ご協力をお願いする旨の挨拶があった。

4. 理事長挨拶

山元理事長から概要次のような挨拶があった。

- (1) 本大会の開催に当っては秋山大会委員長(北海道支部長)をはじめとする支部関係の会員の皆様方の並々なぬ努力に対し感謝するとともに、北海道支部創立30周年記念行事を催すなど支部活動に尽力されていることに対し敬意を表する。
- (2) 本学会の活動について、2、3の問題を申し述べるが、学会の会務は、各理事、各会員の学会への尽力、協力により順調に発展しており、会計も会費その他の収入が順調であり、賛助会員を含め4,200名近い会員数となっており、会員の協力によるものと感謝する。
- (3) 機関誌の「天気」は増ページを図りながら新しい内容を盛り込むよう努めている。

「気象集誌」については、このたびNWPシンポジウムの特別号を気象庁の協力を得て発刊した。外国人による英文校正を試行したが結果が良いので来年の1号から取り入れることとし、ページチャージの値上げでまかなうよう計画している。さらに、従来の活版印刷方式を変更し、コンピュータ/レーザープリンターによって版下作成、印刷するという新しい方式を検討中で、なんらかの方針が決まれば会員